

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんこうせいがくえん じょしちゅうがくこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	学校法人佼成学園女子中学高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校 6クラス、147名 高等学校 18クラス、583名 スーパーグローバルクラスは平成27年度新設	
特進留学コース	46	29	38		113		
グローバルクラス	30	30	30		90		
⑥研究開発構想名	フィールドワークを通じた多民族社会における平和的発展の研究						
⑦研究開発の概要	タイやイギリスなどにおけるフィールドワークを通じ、多民族社会の平和的発展のあり方、それに対する関わり方へ「異文化研究」および「国際知識」として取り組みます。また、課題研究以外に「社会行動能力」、「英語コミュニケーション力」、「キャリアプラン」を実施し、グローバル人材へ向けた意識や能力を醸成します。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的とするグローバル・リーダー像を「『日本人としてのアイデンティティを認識しつつ異文化を理解する能力』と『異文化とコミュニケーションして影響力を及ぼす能力』を身に付け自立した女性」と定め、それを高校生活で実現することを目的とします。このため、生徒はフィールドワークを通じて「多民族社会における平和的発展」をテーマとする「異文化研究」に取り組みます。</p> <p>また、「異文化研究」の基礎となる「国際知識」を事前学習で習得、それを活用して特進留学コースではニュージーランド、スーパーグローバルクラスではタイとイギリスで「異文化研究」に取り組めます。さらに、「異文化研究」を「国際知識」の研究と実践的習得につなげます。</p> <p>そして、①多民族社会における平和的発展へ向けた主体的かつ能動的な意識、②将来像やビジョンをグローバル社会と関連付けて描く自律的なキャリアプラン、③キャリアプランを実現するためのリベラルアーツ、この3点を指定期間中に生徒が習得することを目標とします。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>これまでの「英語の佼成」や「特進留学コースにおけるニュージーランド留学」の成果を分析すると、総合的で長期的なグローバル人材の育成が必要と認識しました。このため、「異文化研究」「国際知識」という研究課題を帰納的に統合し、「多民族社会における平和的発展」をテーマとして研究させることによって、「『日本人としてのアイデンティティを認識しつつ異文化を理解する能力』と『異文化とコミュニケーションして影響力を及ぼす能力』を身に付け自立した女性」を育成できる、という仮説を立てています。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>本校ホームページによる掲載、発表機会への積極的な参加、教材コンテンツやノウハウの普及、教員・保護者・卒業生・各種関係者への働きかけを通じて、広範な関係者がグローバル社会への関心を高め、能動的に国際化へ向けて意識が変容するよう促します。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容          テーマ：「フィールドワークを通じた多民族社会における平和的発展の研究」          グローバル社会における重要な課題として、多民族社会がどのように平和的な発展を遂げるのか、それに対して日本や日本人がどう関わるべきかという問題があります。          その解決手法として、一つには異なる価値観を受け入れる寛容な精神風土の醸成、一つには社会的弱者（少数民族や女性など）の経済的な自立、一つには自然をはじめとする環境との調和という課題に取り組みます。          具体的な研究テーマとしては、次のような事項が想定されます。          ①少数民族や女性を包含する多文化受容力の醸成へ向けた支援活動（国際知識、社会行動能力）          ②フェアトレードによる経済的な自立へ向けた支援活動（英語コミュニケーション力、キャリアプラン）          ③森林および河川環境の保全へ向けた支援活動（国際知識）</p> <p>(2) 実施方法・検証評価          自ら海外の現地を調査する「異文化研究（フィールドワーク）」を研究開発の重要なポイントとして位置付け、「多民族社会における平和的発展」を研究するとともに、その成果を検証評価します。また、「異文化研究」を通じて「国際知識（多民族社会の平和的発展における多文化受容力と巨視的な知識の研究）」を研究することにより、実践的な能力を習得します。こうした研究課題を実践するために、【異文化研究】【国際文化】という学校設定科目を設けます。          ①学校設定科目【異文化研究】          テーマ：「多民族社会における平和的発展の研究」          「多民族社会における平和的発展」をテーマとして多民族社会でフィールドワークを実施、それを論文とし、校外でプレゼンテーションします。          ②学校設定科目【国際文化】          テーマ：「多民族社会の平和的発展における巨視的な知識の研究」          多民族社会の平和的発展で必要となる国際知識を事前学習します。また、「異文化研究」を通じて多民族社会の平和的発展に必要な国際知識の研究と醸成を行います。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等：該当はありません。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価：          「異文化研究」の前提となる「社会行動能力」「英語コミュニケーション力」に取り組むとともに、グローバル社会へ向けた自分自身の「キャリアプラン」を作成、グローバル・リーダーを目指した長期的かつ自律的な成長を実現します。          ①「社会行動能力」          グローバル社会に必要なスキルやコンピテンシーを向上させ、多文化受容力を育むトレーニングを実施します。          ②「英語コミュニケーション力」          自らのアイデンティティをきちんと伝えられるショートセンテンスの習得や TOEFL や IELTS を目指した英語教育を行います。          ④「キャリアプラン」          グローバル社会へ向けて長期的なキャリア形成を可能とする生徒への意識づけと卒業後のキャリア支援を行います。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等：該当はありません。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法          帰国・外国人生徒の積極的な受入、イギリスへの修学旅行と短期留学、ヤングアメリカンズとの歌と踊りによるワークショップ、スリランカでの青少年交流を実施します。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>該当はありません。</p>

ふりがな	がっこうほうじんこうせいがくえんじょしちゅうがくこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	学校法人佼成学園女子中学高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 生徒が国際知識などを学ぶのとあわせ、自主的な社会貢献運動や自己研鑽活動へ取り組むことを奨励する。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	24人	34人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 生徒が自主的に留学や海外研修へ行くことを奨励し、必要な支援措置を講じる。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	32.00%
	SGH対象生徒以外:	5.10%	6.50%	%	%	%	%	%	15.20%
目標設定の考え方: キャリア・プランニングによる支援を通じ、留学や国際的な活躍をビジョンとする生徒の割合をSGHで30%以上目指す。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	0人	57人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: プレゼンテーション実践の結果として、表彰や入賞に該当する生徒の数を全校で100人以上目指す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	30.90%	30.80%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: スーパーグローバルクラスにおいては全員、留学クラスにおいては50%以上、TOEFL57点以上目指す。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	%	20.00%	%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学への進学を推奨し、スーパーグローバルクラスにおいては基本的に全員、留学クラスにおいては30%以上、全校で70人以上を目指す。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	2人
目標設定の考え方: TOEFL57点以上を実現させ、スーパーグローバルクラスにおいては10%以上(大学院も含め)を目指す。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	31.6%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: スーパーグローバルクラスにおいては50%以上、留学クラスにおいては20%以上を目指す。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: キャリア・プランニングによる長期的な支援を通じ、大学在学中に留学や海外研修に行く卒業生を全校で30人以上を目指す。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	15人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 海外研修の機会を多様に整え、参加者数を30人以上目指す。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 国内研修の機会を多様に整え、参加者数を30人以上目指す。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	14校	22校	校	校	校	校	校	32校
目標設定の考え方: 現時点で必要な高校は確保しており、今後は海外大学を中心として5校以上の連携を目指す。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	28人	28人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 高大連携授業やフィールドワークなどを通じ、100人以上の参画を目指す。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	1人	6人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 社会行動能力や国際知識の教科を通じ、50人以上の参画を目指す。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: スーパーグローバルクラスについては全員参加を目標とし、波及効果も見込んで50人以上の参加を目指す。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	1人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 入試制度に工夫を施し、5人以上の受入を目指す。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方: SGHを通じ、年間3回以上の研究発表を目指す。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 多言語化を実現するとともに、SGH関連情報については四半期ごと、それ以外については年度ごとに更新する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	568人	583人					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							